

第1回 国立天文台光赤外専門委員会 議事録

日時：2010年8月9日(月) 11時-16時(昼食休憩1時間含む)

場所：国立天文台(三鷹)大会議室(岡山観測所とTV会議)

出席者：伊藤洋一、長田哲也、神田展行、佐藤文衛、松原英雄、
山田亨、有本信雄、泉浦秀行(TV)、市川伸一、小宮山裕、
竹田洋一、山下卓也、櫻井隆

欠席者：嶋作一大、吉田道利、臼田知史、

未連絡：水本好彦、家正則、郷田直輝、田村元秀、高見英樹、川村静児

0. はじめに

0-1 自己紹介と委員長選出

まず櫻井副台長の司会で開会され、出席者の自己紹介があった。

続いて委員長の選出が行われ、有本委員から推挙された山下委員が委員長に就任することに満場一致で決まった。更に山下新委員長の指名により副委員長に山田委員、幹事に竹田委員が選ばれた。

0-2. 本委員会のミッションについて

櫻井副台長から今期の本委員会に期待されるミッションについて簡単な説明があった。すばるHSC、IPMUのSuMiRe、TMT、重力波プロジェクト等の大型計画に国立天文台がどのように関わっていくか、京大新望遠鏡が完成した後の岡山観測所をどのように処遇するか、などを議論して方向性を打ち出してほしい。

1. 報告と議題

1-1. すばる小委員会新メンバー承認

有本委員より光赤外専門委員会の下部に属するすばる小委員会の活動の説明があり、2年ごとに入れ替えが行われるのに伴う2010-2011年期の委員メンバーが資料2のように提案され、承認された。

2. 報告と議論

2-1. 2008-2009年光赤外専門委員会報告

前期の本委員会の活動内容と申し送り事項について、有本委員より資料3の活動報告書(すばる望遠鏡の診断、国際協力と国際化、共同利用の形態、の三点についての詳細な検討)に基づいて説明があり、それに対して質疑応答があった(TMT-SACの設置、JWSTへの日本の関わり、データベース天文学との関係、など)。

2-2. UH88/UKIRT 望遠鏡日本人時間について

(UH88/UKIRT 日本人時間 TAC 委員長でもある) 泉浦委員より、2010 年度末で天文台の予算が切れるので、9 年間続いてきた UH88/UKIRT 日本人時間の提供は出来なくなることが報告された。(UKIRT は望遠鏡自体が共同利用を停止することもあって無理だが) UH88 については 3 年程度なら観測時間の提供は可能であるとのことなので、もしコミュニティの要望が強ければ、科研費などで財源を確保することで 2011 年以降の継続を考えてもよいだろう。

2-3. 岡山観測所の今後について

岡山観測所の将来に関する国立天文台の試案(資料 4)の 5 項目が櫻井副台長より説明された。①今後 5 年間は現在の共同利用を維持、②京大望遠鏡完成後はその観測時間の半分は国立天文台が実務担当で共同利用、③平成 27 年度以降は観測所の土地、建物、望遠鏡・観測装置は国立天文台が手放すことも検討、④中小望遠鏡運用支援のための大学間連携研究特別経費を概算要求する、⑤空席の岡山観測所長の台内公募。このうち特に③の項目について、現在主力の 74 インチ望遠鏡をどうするかという問題も含めて様々な意見が出された。74 インチ鏡は使える限りなるべく生かして維持したい、堂平観測所のように旧くなった望遠鏡・装置は段階的にシャットダウンさせて行くべきだ、すばるや TMT を含めて全体を見据えてどうするかを考えなければならない、74 インチ望遠鏡は地方大学に払い下げてあげれば天文学の裾野を広げることになっていいのでは、今後大学が主体になって運営するにしても国立天文台のサポートはやはり必要だ、など。今回はまとまった見解には至らなかったが、翌週 8 月 17-18 日に開かれる岡山 UM でユーザーの声も聞いてからその直後に臨時の会合を設けて話し合い、この試案に対する本委員会としての正式意見をまとめて天文台に提出することになった。

2-4. すばる小委員会報告

有本委員より、資料 5 の議事録に沿って、これまでに開催された本年度のすばる小委員会(委員の承認前なので暫定的に私的な「すばる懇談会」という名称で開催)で議論された具体的な内容が報告された。FMOS 戦略枠、共同利用観測夜数の確保、大型将来装置計画の近況、TAC 報告、など。

2-5. 重力波実験近況報告

神田委員より資料 6 に沿って、この度最先端研究基盤事業の補助対象事業に採択されて 2010 年度から 3 年間 98 億円の予算が付いた LCGT(Large-scale Cryogenic Gravitational wave Telescope: 大型低温重力波望遠鏡、東大宇宙線研がホストで岐阜県神岡に建設)の説明があった。国立天文台重力波プロジェクトとも密接に関係している。諸外国の装置との競争になるが、2010 年代半ば頃の(世界で初めての)重力波直接検出が期待される。

2-6. TMT 小委員会の設置について

委員長より前期の専門委員会での議論を引き継いで TMT 小委員会の設置が提案され、光赤外専門委員会として承認した。

3. その他

3-1 次回委員会の日程

次回の第2回光赤外専門委員会は11月中に開催する予定。

また岡山の将来に関する国立天文台の試案に対する本委員会としての答申書の作成は時間的に急ぐので、臨時の集まりを岡山 UM の直後の8月20日(金)午後に行うことになった

配付資料

1. 2010-2011 年度光赤外専門委員会構成員名簿
2. すばる小委員会新委員リスト (2010-2011 年度)
3. 2008-2009 年度光赤外専門委員会報告書
4. 岡山天体物理観測所の今後の運用方針と観測所長人事について
5. 第1回、第2回すばる小委員会議事録
6. 重力波実験近況報告